

申請事業名：自動車廃材を利用したバリアフリービーチでの海洋体験機会創出

目的：自動車廃材を利用したバリアフリービーチで健常者と障がい者が一緒に海を楽しむイベント及び水難事故防止啓発事業の実施。

①バリアフリービーチイベント

地域や行政と協働し障がい者と健常者が一緒に海を楽しむマリナクティビティ体験等を通して共生社会の構築に寄与する



8月9日 鼠ヶ関 455名参加



海水浴客用受付設置



9月4日 鼠ヶ関

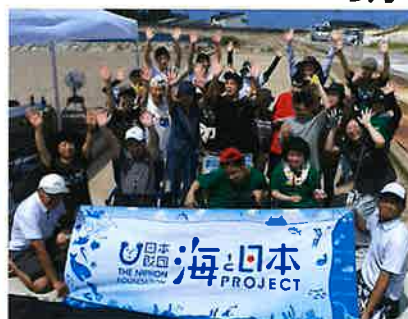


◀ 鶴岡市役所内掲示の広報ポスター
& 鶴岡市広報に掲載の記事



▼実施内容

障がい者施設や当該行政、NPO等団体と協働し、障がい者と健常者が一緒にマリナクティビティを楽しむバリアフリービーチイベントを8月9日、26、30日、9月4日、マリパーク鼠ヶ関、加茂レインボービーチで回開催した。



8月26日 鼠ヶ関



▼成果

一般海水浴客用受付を設置し、9日は250名余と多くの参加で事業啓発につながった。マスコミは県内民放TV全4局、地元新聞社2紙の取材いただきアウトプット効果を得られた。さらに昨年からの継続で鶴岡市職員数名が運営スタッフとして参加、庁舎内にポスター掲示等、行政との連携が強化されている。

▼課題・改善点

障がい者を持つ家族から、イベントの参加方法がわからない、一般として参加可能なの？という声が寄せられ、広報手段に改良点が多いのではないと思われる。施設ごとではなく一般県民にも届く広報が必要。ただ、そうした声が寄せられるということは県民への認知度が高まった成果ともいえる。

- * 8月9日：455名参加
- * 8月26日：39名参加
- * 8月30日：54名参加
- * 9月4日：48名参加

② 県外への事業啓発とイベント開催

近県で地域行政や、マスコミ等を巻き込んだバリアフリービーチ事業の啓発とイベントの実施。



8月22日 新潟県村上市（75名参加）



水陸両用車いすビーチスター



広報ポスター

▼実施内容

バリアフリービーチ事業の近県への啓発のため、当該行政や地域の団体、マスコミを巻き込みバリアフリービーチイベントを開催した。新潟県村上市・瀬波温泉海水浴場

▼成果

＊新潟リハビリテーション大学、地元少年サッカーチーム・NPO団体等と協働し実施することができ、新たな連携を構築できた。
＊目標参加者50名に対し 75名の参加を得た。
＊今年度、ようやく村上市の協力を得ることができ、障がい者施設への案内等、協力いただき次年度に繋がるのではないかと思います。

▼課題・改善点

一般海水浴客等を巻きこむために、海水浴シーズンに開催したいが、実施に際し、村上市から部分的な海水浴場占有許可が必要である。3年目という事で実績を基に地元団体・施設と協力し許可申請に臨みたい。

メディア露出

各メディア露出（9月25日時点）

◇TV放送回数 計4回

◇新聞掲載回数 計 3社 6回

◇3事業 総参加者数 705名

テレビ露出

エリア	日付	媒体名
山形県	8月9日	山形放送 news everyサタデー
山形県	8月9日	山形テレビ ANNスーパーJチャンネル
山形県	8月9日	テレビユー山形 Nスタ
山形県	8月9日	さくらんぼテレビジョン Newsイト！やまがた



▲山形放送



▲山形テレビ



さくらんぼテレビ▶



▲テレビユー山形

新聞露出 (2025年9月25日現在)

日付	媒体名	テーマ
7月10日	山形新聞社	イベント開催パブ情報掲載
8月14日	山形新聞社	バリアフリービーチフェスinねずがせき
8月13日	荘内日報社	バリアフリービーチフェスinねずがせき
8月31日	サンデーいわふね (いわふね新聞社)	バリアフリービーチin村上 (新潟)
9月20日	山形新聞社	海洋体験と障がい者の心身への効果検証
9月15日	荘内日報社	海洋体験と障がい者の心身への効果検証



◀ 荘内日報 9月15日



▲山形新聞
8月14日
マリンパーク 鼠ヶ関

山形新聞
7月10日
イベント情報▶

▲荘内日報
8月13日



▲山形新聞
9月20日

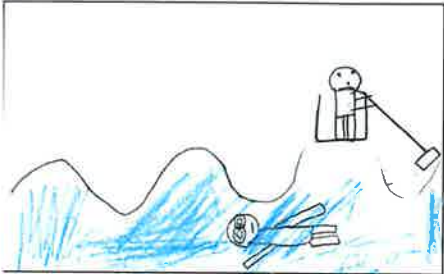
◀いわふね新聞
8月31日

参加者や保護者からの声①-1

8月30日：加茂レインボービーチバリアフリービーチイベント：ならはし事業所/（酒田市）その1

■参加障がい者からのお礼状紹介

夏休みの絵日記 名前 ゴンちゃん



8月30日 土曜日 天気 晴	もぐもぐのカタ	のしかったです。
----------------	---------	----------

夏休みの絵日記 名前 田中 立風



ぼくは、おさがやきに行ってバナー
ボートにのりまして、楽しか
たです。またいつか行きたいです。

夏休みの絵日記 名前 田中 立風

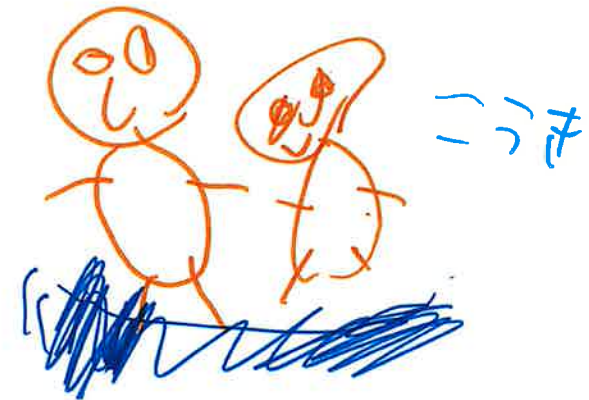
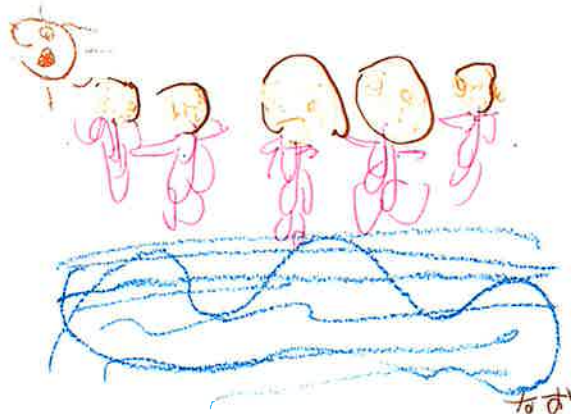


おとうさんといっしょに海をおそ
きました。たのしかったです。7月の
色は、みどりです。

夏休みの絵日記 名前 工藤 龍聖



8月30日 土曜日 天気 晴	レイニービーチでう	くのか楽しかったです。	ゆのはまさんじゅうを	いきました。ソフトクリー	も食べました。
----------------	-----------	-------------	------------	--------------	---------



参加者や保護者からの声①-2

8月30日：加茂レインボービーチバリアフリービーチイベント：ならはし事業所/（酒田市）その2

■参加障がい者からのお礼状紹介

ITALICO 笑顔ナビ

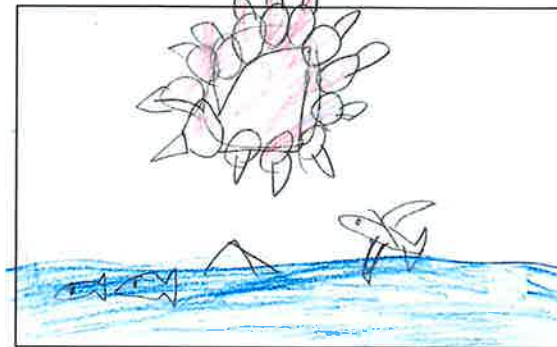
名前	お名前	が	つ	月	に	ち	日	曜日
ましまゆうと								
								
おかあさんとうみに いったよ。								



夏休みの絵日記

名前

いとう系青心



月	日	曜日	天気

おざかせぎバリアフリー
ビーチイベントにいった
ました。みすあそびを
しました。



夏休みの絵日記

名前

畠田 輝一郎



月	日	曜日	天気

8月9日土曜日 天気
うみにいきました
バナナボートにのりました。
たのしかったです。

【職員・父兄コメント抜粋】

- 帰りの車で「うみ、だいすき」と言っていた。写真みながら「うみ行った～！」とも言っていたのでほんとに楽しかったんだと思います。ありがとうございました。（父兄）
- 親子行事の海、楽しめました。ありがとうございました。帰りのバスで「砂に絵を書いて楽しかった」と上手に発表していたので感心しました（父兄）
- あいにくの強風でマリナクティビティ体験はできませんでしたが、海に入ることができ、また貝殻アート等を手配いただきありがとうございました。（施設職員）

参加者や保護者からの声②

9月4日：マリンパーク鼠ヶ関バリアフリービーチイベント：ぽけっとぴーすの森（寒河江市）

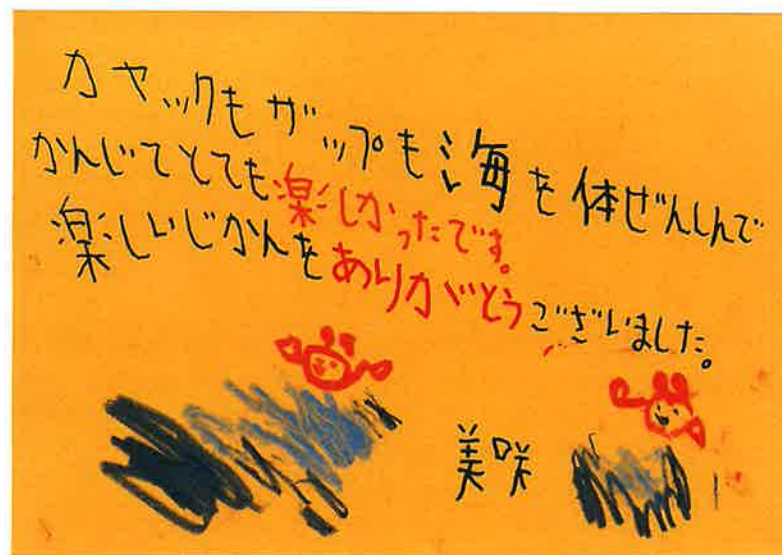
■ 参加障がい者からのお礼状紹介



● 人工呼吸器利用の重障がい者の息子さん、お父さんがイベント当日の息子さんを書いた絵です(B)。これを見た息子さんが負けまいと対抗して書いた絵が左(A)だそうです。感謝の電話いただきました。



● ぽけっとぴーすの森の皆さんの合作「思い出の海」



③ 海洋体験と障がい者の心身への効果検証

海での体験が高齢者や知的障がい者に及ぼす効果等を新潟リハビリテーション大学と協働で検証した。



8月22日 村上市瀬波温泉海水浴場
(知的障がい者)



9月12日 鶴岡市加茂
高齢者(計23名参加)



9.30新潟リハビリテーション大学ゼミでの検証ワークショップ(11名参加)

成果報告

▼実施内容

海で遊ぶ、過ごす等の海体験が知的障がい者・高齢者の心身にどのような影響、効果があるのかを検証するとともに、その結果を施設と共有し、高齢者、知的障がい者のリハビリテーションへの活用を推進する。

▼成果

協力を依頼した障がい者施設、高齢者施設とも、海との関わりへの関心がなかったが、実際に海とのf触れ合いから表情や言動の変化に施設職員も驚いていた。特に高齢者は海を見る、潮風にあたるのが何十年ぶり、と感激、また海に來たいと話していた。

▼課題・改善点

障がい者・高齢者とも海を見た瞬間から笑顔・テンションアップ。
参加、開催前日からの検証スタートする必要あり、施設への協力要請が課題であるが、本年の実績を基に次年度は事前に依頼する。
また、障がい者・高齢者自身が自分の感覚として評価できる検証方法の検討

新潟リハビリテーション大学からの報告書 1P

事業報告書

海洋体験による障がい者の心理的効果検証事業

提出日：令和7年10月24日

報告者：新潟リハビリテーション大学

知名規人（こころからの健康づくり研究センター長）
若菜翔哉（地域連携推進室長）

1. 事業の目的・趣旨

本事業は、一般社団法人ドリームやまがた里山プロジェクトおよび新潟リハビリテーション大学の協働で、海洋体験イベントを通して障がい者の心理的变化を客観的に検証し、インクルーシブな地域活動推進の一助となることを目的として実施したものである。

2. 事業の実施概要

- 1) 対象者（人数）、実施日、協力施設、アクティビティ内容
 - ① 発達障がい（13名） 令和7年8月22日
CROSSWALK（就労継続支援B型事業所）
放課後等デイサービスおひさま
シーカヤック・BIG サップ・海あそび
 - ② 高齢者（5名） 令和7年9月12日
永寿荘デイサービスセンター
海洋を眺望できる場所での茶話会

2) 場所

- ① 新潟県村上市瀬波温泉海水浴場
- ② 山形県鶴岡市加茂「渚の交番 カモンマーレ」

3) 調査者

新潟リハビリテーション大学学生9名（1年～4年次）

4) 調査の概要

海洋体験前後における心理状態の調査は「こころのダイアグラム二次元気分尺度」を用いた（図1参照）。本尺度は、回答者の心理状態を「活性度（抑うつ状態 - 元気な状態）」および「安定度（不安・緊張状態 - 落ち着いた状態）」の2軸により定量的に捉えるものであり、信頼性・妥当性が確認されている心理評価法である。子どもから成人に対応することが可能な尺度を採用した。

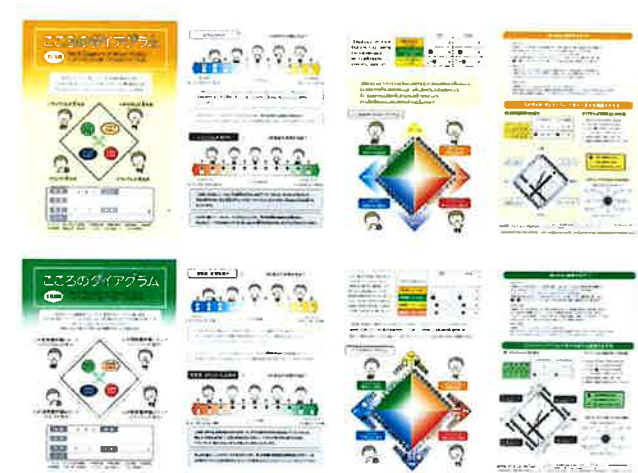


図1 こころのダイアグラム二次元気分尺度
上段：子ども用、下段：成人用

5) 結果の概要

① 発達障がい領域：

海洋体験前の心理状態が高く、体験後の調査においても同様の結果が得られる。心理状態を構成する2つの要素ごとに見ると「活性度」「安定度」のそれぞれで実施前及び実施後の点数が高い結果が得られた（図2参照）。

② 高齢者：

海洋体験前の心理状態が高く、体験後の調査においても同様の結果が得られる。また、活性度及び安定度のそれぞれで実施前後の点数が高い結果が得られた（図3参照）。

新潟リハビリテーション大学からの報告書 2P

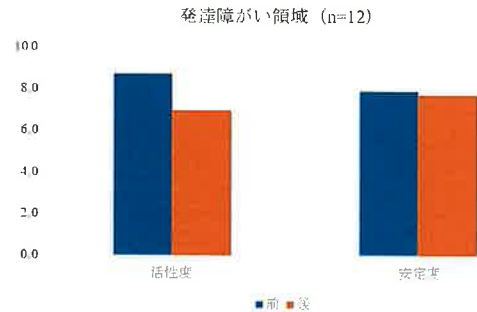


図2 海洋体験前後における各心理尺度の変化（発達障がい領域）
未回答1名分は除外した

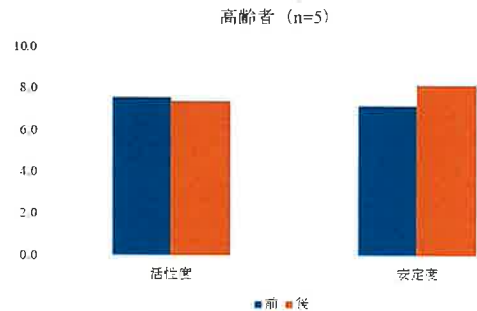


図3 海洋体験前後における各心理尺度の変化（高齢者）
発達障がい領域（図2）に合わせて、尺度を10点に修正した

6) 参加者の感想

調査用紙では得られないことのできない質的な感想が得られた。
実際の感想例
・「楽しかった」

- ・「また来たい」
- ・「(楽しすぎて) 疲れた」

7) 施設職員の感想

〈CROSSWALK、放課後等デイサービスおひさま〉

視界の開けた屋外でのマリニイベントへの参加により、子どもたちの笑顔がいつも以上に多く見られ、地域の豊かな自然環境の中で心身ともに気持ちを発散できていることを実感した。

ご用意いただいたアクティビティや適切なサポートのもと、子どもたちは海を楽しむための自己決定や自己判断を、譲り合いの気持ちを持ちながら上手に行っていた。こうしたインクルーシブな視点に基づく体験を通じて、当事業所の児童が一体となり、お互いを思いやりながら活動に参加する特別な一日を自らの力で実現できたことは、非常に貴重な機会であった。

この経験は、日常の放課後等デイサービス活動においても、人を思いやる気持ちや活動を共有する喜びを育むことに繋がっている。運動への関心が高まり、公園での遊びが増える児童や、来年度のビーチイベントを楽しむに声も聞かれるなど、今回の体験が継続的に子どもたちの関係性を深める一助となっている。

〈永寿荘デイサービスセンター〉

天候にも恵まれ、新潟リハビリテーション大学の学生および教員と交流を図りながら、海を眺める穏やかな時間を過ごすことができた。

滞の交番カモンレ館内では、抹茶および和菓子の提供があり、参加者は学生との会話を交えながらゆったりとした雰囲気の中で茶会を楽しんでいた。参加者からは「久しぶりに海を見ることができてうれしい」との感想が多く聞かれ、海を介した体験が心理的安定感や情動の活性化に寄与する可能性が示唆された。今後も、こうした自然環境を活用した地域交流活動を継続的に実施したい。

8) 学生および教員による結果分析と振り返り（図4参照）

- ・海洋体験前より気持ちの高揚があったのではないかと（当日の海洋体験以前に海洋体験に参加することが決定した時点で既に海洋体験に対する期待感が膨らみ、当日海岸に移動して海を見た時点で既に心理的效果があったのではないかと）
- ・海洋体験後は身体的疲労に反して精神的安定度が高いまま推移、あるいは増加した
- ・調査前の場所や時期を工夫することで、海洋体験前後の変化がより捉えやすくなる可能性がある（海洋体験イベントに参加する以前の心理状態を事前調査する）
- ・調査内容を十分に理解出来ないうちに回答してしまっている対象者もいたのではないか（評価の数値が極端に突出している回答者がいた）



図4 結果分析と振り返り

令和7年9月30日 新潟リハビリテーション大学内に実施（学生6名、教員2名）

9) 今後の展望

海洋体験イベントに参加する発達障がい領域の対象者および高齢者の心理に与える影響について検証を行った結果、海洋体験前後における心理状態が高いことが分かった。体験前に心理状態が高いレベルに達しているということは、当該者にとって過去の海洋体験における記憶が、満足度の高いものであったと推測される。このことにより、海洋体験に対する期待感が心理状態の高い数値として現れたものと考えられる。

一方、海洋体験の効果を強調するためには「サンプルサイズをより大きくすること」や「調査時期及び場所」の検討が必要であり、参加者個々のニーズに合わせたアクティビティの提供を行うことで海洋体験の更なるインクルーシブ化が推進できると考える。

【知名所感】

本事業は、海洋体験を通じた障がい者や高齢者の心理的效果を科学的に検証し、地域社会に新たな福祉のアプローチを示す点で意義深いです。自然環境の活用が心理的安定や情動の活性化に寄与する可能性が示唆され、今後の地域支援・福祉サービス設計に資する知見が得られました。地域施設、大学、支援団体の連携・協働による運営は、地域共生の実践モデルとして評価でき、また学生の科学的支援の重要性や地域連携への意識向上にも繋がりました。今後は、これらの成果を基盤に、事業の持続的発展とインクルーシブな海洋体験の推進を図りたいと考えています。

【若菜所感】

本事業は、世代間交流と科学的検証において非常に価値が高く、意義深い事業だと考えます。小学生～高齢者、そして様々な立場の方々での交流は、社会問題にもなっている「社会的孤立」の緩和や「自己肯定感」や「社会人基礎力」の向上に寄与する可能性があります。また参加者の心理状態を定量的に評価することで、本事業の発展だけでなく、今後の福祉サービスや地域支援の設計にも寄与することが期待できます。本事業を今後も継続することの価値は高いと考えています。PDCAサイクルを重ね継続して事業を実施することで、海洋体験を通じた心身の健康促進を目指す方向へ

海洋体験と障がい者の心身への効果検証

新潟リハビリテーション大学からの報告書 3P

と発展するだけでなく、地域資源としての「海」の活用を「福祉・教育・観光」の分野においても広げることが期待されます。

3. まとめ

本事業を通じ、海洋体験が参加者の心理的活性化および安定化に寄与する可能性が示唆された。今後は、サンプル数を拡大し、定量的分析の精度を高めるとともに、発達障がい領域の対象者および高齢者を含む地域全体でのインクルーシブな海洋体験活動を継続的に推進したい。

謝辞

本事業の実施にあたり、多大なるご支援・ご協力を賜りました関係機関および関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。

3. 社会福祉法人恵泉会 公式インスタグラム（令和7年10月7日付）

https://www.instagram.com/keisen_sw/reel/DPQWt3Cbtv/



- 山形新聞（令和7年9月20日付）「海みると笑顔になるね 鶴岡 市民団体が癒やし効果検証」（一部、匿名化加工済）



参考資料一覧

- 荘内日報（令和7年9月15日付）「海の“癒やし”効果を検証 ドリームやまがた里山プロジェクト デイサービス利用者聞き取り」（一部、匿名化加工済）

